

# かわさき区の宝物シート

宝物No.
2-1

## かわさきのうがくどう 川崎能楽堂



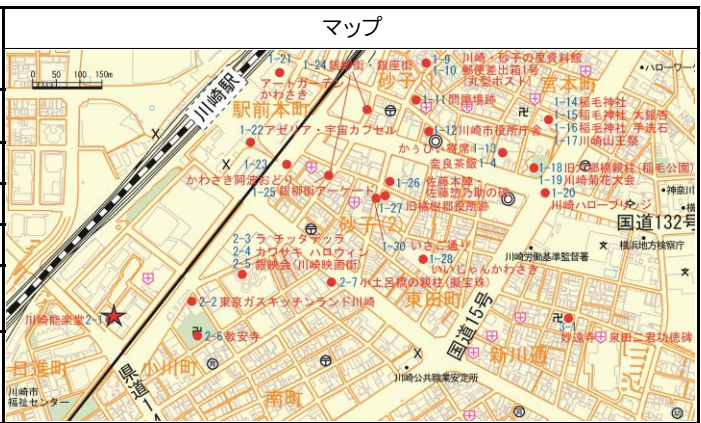
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：(公財)川崎市文化財団

所在地	川崎区日進町1-37
問い合わせ	(公財)川崎市文化財団
TEL	044-222-8821
FAX	044-222-8817
E-mail	
URL	http://homepage2.nifty.com/k-bunkazaidan/noh/index.htm ((公財)川崎市文化財団HP/川崎能楽堂)
交通	JR川崎駅より徒歩10分



### 基礎情報

■能をはじめとする古典芸能や邦楽の発表・鑑賞の場。身近に能楽鑑賞ができる首都圏屈指の本格的な能楽堂として好評を博している。能楽以外の伝統芸能の発表の場としても使用される。5.5m四方の能舞台を、三方から148席（正面55、脇正面40、中正面53）の客席が囲む。舞台背景となる鏡板には川崎市在住の日本画家・結城天童氏の「松」が描かれている。

### 由来・エピソード

■昭和61年(1986)開設。能楽は独特の様式を持った我国の古典劇。舞台のつくりにも独自の伝統的な様式が求められる。そのため、多目的ホールの舞台などでは能楽のための空間をつくり出すことは非常に困難とされている。川崎能楽堂は、日本の歴史や伝統文化をもう一度じっくりと足元から見直すことのできる数少ない場のひとつとなっている。

■川崎における能楽活動は、戦後間もない頃市内の会社や工場で働く人々によってつくられた能楽愛好会が中心となって「川崎市能楽謡曲連合会」（川能連）が発足したところから始まった。川能連の要望や活動を受けて、労働会館と産業文化会館（現・教育文化会館）などに本格的な組立舞台が実現した。川崎大師平間寺では、奈良の興福寺に起源をもつ「薪能」が開催されるとことともなり、現在川崎を代表する文化行事にも位置づけられるに至った。このような背景のなか、伝統芸能を演じる舞台としてふさわしい装備を誇る、本格的なホールとして川崎能楽堂は誕生した。

### 補足・その他

### 関連シート